

アメリカンフットボールにおけるポジションと性格の関係 The Relationship between Position and Personality in American Football

1K08A089-4

指導教員 主査 正木 宏明 先生

栗原 貴徳

副査 磯 繁雄 先生

【目的】

アメリカンフットボールというスポーツは、究極のチームスポーツと呼ばれ、おそらくどのスポーツよりも、各ポジションによって明確に役割が分かれている。著者は、高校までは陸上競技の短距離に携わり、大学からアメリカンフットボールを始めた。その中で、ポジションや、オフェンス、ディフェンスによって役割や練習メニューが全く違うせいか、それぞれのポジションやオフェンス-ディフェンス間で性格特性の差があるのではないかと感じた。ポジションごとの性格特性を明示することができれば、ポジションを決定する際の指標になると考え、本調査を実施した。

また、陸上競技の短距離種目という最もシンプルな個人競技から、アメリカンフットボールという究極のチームスポーツと呼ばれる団体競技へ転向して、自分の性格や価値観が多少なりとも変わっていきっていると実感した。そうした経験の中で、アメリカンフットボール選手には、特有の性格のようなものがあり、アメリカンフットボールをプレーすることで性格が変わっていくのではないかと思います、本調査を実施した。

【方法】

W 大学アメリカンフットボール部員 95 名に対して、NEO-Five-Factor-Inventory (NEO-FFI) への回答を求めた。その数値を集計、統計処理を行なった。また、同様の調査を W 大学ラグロス部員 81 名に対して実施した。比較する条件として、8 つのポジションごと、8 つのポジションを体型と役割で 3 つ分けた Skill-Backs-Line, オフェンス-ディフェンス間、学年間、高校時代のアメリカンフットボール経験の有無、ラグロス部との競技間、アメリカンフットボール部、ラグロス部 2 つのオフェンス-ディフェンス間で比較した。

【結果】

ポジション間では O(開放性)の得点において、DB が TE より高い有意傾向が出た。また、C(誠実性)の得点において、DL が TE よりも高い有意傾向が出た。

Skill-Backs-Line 間では E(外向性)の得点に

おいて Skill が Line より高い有意傾向が出た。また、O の得点において、Skill が Backs よりも有意に高く、Line が Backs よりも高い有意傾向が出た。また、A(調和性)の得点において、Skill が Line よりも高い有意傾向が出た。また C の得点において、Skill が Backs よりも高い有意傾向が出た。

学年間では、O の得点において、4 年生が 2 年生よりも有意に高かった。

ラグロス部との比較では、N(神経症傾向)の得点において、アメリカンフットボールの方がラグロスよりも有意に高かった。

【考察】

ポジション間で性格特性を比較したところ、TE と DB, TE と DL の間で有意傾向が見られた。この結果から、ポジションと性格特性には関係があると考えられる。

Skill-Backs-Line で性格特性を比較したところ、E, O, A, C の値で有意差、もしくは有意傾向がでた。この結果から、アメリカンフットボールにおける性格特性の差には、ポジションの役割と体型が大きく関わっていると考えられる。

オフェンス-ディフェンス間では、アメリカンフットボール部のみの比較でも、ラグロス部を含めた比較でも、性格特性の差がでなかったことから、性格特性には、オフェンス、ディフェンスの違いよりも、ポジションの役割や、体型が影響していると考えられる。

フットボール経験の有無と学年による比較では、アメリカンフットボール特有の性格があるということを支持する結果は得られなかった。学年や、高校時代のフットボール経験よりも、合計のアメリカンフットボール経験年数や、チームスポーツの経験年数が、性格特性に影響しているのではないかと考えられる。

アメリカンフットボール部とラグロス部と比較したアメリカンフットボール部の方が N の得点が高かった。この結果は、二つの競技特性の違いが反映された結果といえ、アメリカンフットボール特有の性格があるという仮説を支持していると考えられる。